

## 平成28年度 第5回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

【開催日時】：平成29年2月13日（月）午後6時30分から午後7時55分まで

【開催場所】：教育委員会棟2階会議室

【出席者】：審議会委員11名

阪根委員、朝田委員、川上委員、久次米委員、黒濱委員、先田委員、  
佐藤委員、藤田委員、山本委員、湯地委員、米崎委員

鳴門市6名

大林教育次長、天満教育総務課長、竹下学校教育課長、事務局3名  
傍聴者 なし

### ○次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 中間報告意見交換会について

(2) 第二期鳴門の学校づくり計画のパブリックコメント案について

① 意見交換会での主な意見と計画への反映について

② パブリックコメント案について

4 その他

5 閉会

### ○会議資料

【資料1】 鳴門市教育振興計画審議会委員一覧

【資料2】 平成28年度第4回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

【資料3】 鳴門の学校づくり計画策定スケジュール

【資料4】 第二期鳴門の学校づくり計画 中間報告意見交換会 出席者数

【資料5】 第二期鳴門の学校づくり計画 中間報告 概要

【資料6】 意見交換会で出された主な意見と事務局対応案

【資料7】 第二期鳴門の学校づくり計画 素案

### ○会議概要

1 事務局が開会を宣言した。

2 阪根会長があいさつを行った。

事務局より資料1に基づき、審議会委員構成が変更になった旨、報告した。

3 議事

議事(1) 中間報告意見交換会について

事務局より、資料4、資料5に基づき説明した。

会 長

合計で100名を超える方々の参加があったということで、本計画について色々と説明できたことと思う。意見交換会でいただいたご意見や、それを踏まえたパブリックコメント案については、続いて議題(2)に移ることとし、事務局の方から説明をお願いしたい。

議事(2) 第二期鳴門の学校づくり計画のパブリックコメント案について

① 意見交換会での主な意見と計画への反映について

② パブリックコメント案について  
事務局より、資料6、資料7に基づき説明した。

会 長  
意見交換会でいただいたご意見をもとに事務局で検討し、私にも連絡いただいて、一緒に文言の修正を行った。このことについて質問等あれば発言をお願いしたい。

B 委員  
複式学級のところで、常態化という表現がたびたび出てくるが、この常態化というのは具体的にどのような数字、たとえば年数といったことについて想定しているのか。

H 委員  
B委員の質問に加えて、常態化することが見込まれる、というのはどのような視点から見込まれるという方向になっているのか。

会 長  
そのあたりの定義付けなども含めて、事務局の考えは。

事務局  
中間報告の時の書きぶりが、“複式学級が解消できない規模になった段階で”といった表現だったが、意見交換会でいただいた、解消できない規模になった段階で検討を始めたのでは遅いのではないかという意見を受けて、児童の予測数から複式学級編制になることが見込まれる、またその状態が続いていくことが予測されたらということでのこのような表現とした。

会 長  
少し補足させていただく。要は複式学級編制になって慌てて動いていたのでは、教員の需要調査や施設の問題など、どうしても後手に回ってしまうことになる。何年後か先でも、明白な事実として複式学級編制が避けられないとなった時点で、先手を取って動いていくといった、ある程度の幅をもたせたものと理解している。  
意見交換会で参加者の方から、複式学級が解消できなくなってからでは遅いのではという意見が複数出たことから、もう一歩踏み込んだ形に、というイメージである。

H 委員  
児童数の推計から見ても、常態化がすでに見込まれる段階にきている所もあるのではないか。また教頭や加配教員が担任に入ること、複式学級を解消することとの整合性についてはどうなのか。

会 長  
教頭が担任に入って複式学級を解消しているという実情を市民にも知らせるべきではないかということにはなったが、複式学級を解消するために教頭が担任に入ること、を明白に認めるような形で計画の中に書いてしまうのは、課題が大きいだろうということで、これまでの実情として、教頭が担任に入って複式学級を解消してきたということは書くけども、計画としては、教頭が担任に入って複式学級を解消するということを前提とすることは避けた。  
児童数についても、減少していくことは明白ではあるけども、もしかしたら増加することがあるかもしれないという将来的な不確定要素も少し鑑みた形で若干の曖昧さを残した形となっている。

I 委員  
“小規模校区のデメリットを緩和し”という言葉、似たような表現も含め、いくつか出

てきたが、市民の方にとっては、デメリットをどのように緩和するのが、一番関心のあるところであるが、そこが計画だけでは分かりにくいかと思った。  
もう一点、“幼小中一貫教育”としているところと“小中一貫教育”としているところがあるが、前後の文脈から、新しいことを始めようと読めるところに関しては“幼小中一貫教育”とする方がふさわしいのではないかと思われるが、その二つの言葉の考え方をどう捉えたらいいか。

#### 事務局

“幼小中一貫教育”と“小中一貫教育”の使い分けということでもないが、制度としての意味合いを表す時は“小中一貫教育”としている。

#### 会 長

このあたりの整理は改めて必要かと思うが、簡単に言えば国の方で示された制度として文脈の中で表現する時は“小中一貫教育”。分かりやすくいえば義務教育学校ということになる。義務教育学校というのは、小学校でもない、中学校でもない、新しく法律上定義された学校の種類である。一方で、現実的な流れや教育の手段として鳴門独自というか、鳴門型というか、幼稚園も含めた11年間の教育の流れといったものを表現する時は“幼小中一貫教育”としている。さらに言うと今、瀬戸中校区で取り組みを始めているのは、それぞれの学校が別々の場所にある施設分離型幼小中一貫教育ということになろうかと思う。

もう一点、小規模校のデメリットをどう表現するかということについて、先ほどの複式学級の常態化のところの説明したように、小規模校にも様々な捉え方があって、その中のある一面からのものをこれがデメリットと押し出してしまわずに、やはりそこにも若干の曖昧さを残すような形としている。

#### I 委員

曖昧さを残すということは、住民の方が見た場合にある種の分かりづらさも生じてくる。ただ、計画として出すには、具体的なところを出してしまえないということについても理解はできる。

#### 会 長

どのような形、表現で出すかということについては、事務局の方でも若干苦しんだこともあるかと思うので、先ほどのような説明になった。

#### H 委員

施設分離型の幼小中一貫教育ということについて、教員、児童生徒の学校間の移動時の安全の確保や時間のロスといった問題に関しての質問が出てくると思う。

#### 会 長

そのあたりの協議が市やそれぞれの校長先生、あるいはPTAや学校評議員の間で必要になってくる。施設分離型だとしても、そのような距離的な問題、移動の問題、時間の問題が出てくる。学校間を回線で繋ぐICTの手法なども、そういった問題をクリアにする手段としては有効かと思われる。

#### A 委員

学校再編の視点に、③新しい学校づくりの推進という項目が新たに加えられた背景について、意見交換会で幼小中一貫教育を小規模中学校区だけでなく、全市的な取り組みとして広げてはどうかという意見をいただいたことを踏まえて、それを反映させたものと理解していいか。

## 教育次長

第一期の学校づくり計画でも、新しい学校づくりの推進という項目はあった。第二期の計画を考える中で、一旦は幼小中一貫教育の推進を新しい学校づくりの観点として捉えてはいたが、やはりそれだけに限定させるべきものではなく、例えばコミュニティスクールなどの様々な新しい学校の形の可能性も含めて独立して項目立てする必要があるのではないかとということで、そのようにさせていただいた。

## A 委員

③新しい学校づくりの推進という項目の中の“社会の変化に対応”していくことの主語は誰を想定しているか。学校なのか教育委員会なのか、あるいは国全体の教育なのか。子どもが社会の変化に対応していくという意味か。

## 会 長

特に誰それと限定はしておらず、教育に関わるもの全てを含むという理解で良いかと思う。

## A 委員

素案の初めの方に平成34年度の児童数の推計があって、これを見てもうすでに複式学級が常態化しているとも読み取れて、すぐにでも再編を検討しないといけないということになりはしないか、再編実施計画との整合性についてはどう捉えたらいいのか。

## 会 長

おっしゃる通りで、統計上はすぐにでも検討を始めなければいけない。ただ、数字だけを見て、機械的に再編を進めていくということは問題があるのではないか。そうであるならば、将来的な流れを見据えた上で、できることはとことんやるけども、それでもなお、現実的な所に目を向けた時に、どんな施策を打ってもこのあたりが限界だろうなということがはっきりした段階で再編を打ち出すという説明になるかと思う。

それでは、みなさんから一言ずつご意見、ご質問をうかがい、最終的な案の調整を事務局あるいは私に一任いただけたらと思う。

## F 委員

今までの他の委員の質問等を聞くに、言葉の取り方、捉え方一つにしてもとても難しく、きちんと思いや意味を伝えるのは難しいと感じた。

## L 委員

子どもの数が減っていくことは目に見えているけど、地域や保護者は学校を残したいという思いを持っているということで、相反するところがあるのが一番難しいと思う。地域にとって学校を残していくということはとても大事なことであるけれども、これからの鳴門市を背負っていく子どもたちにとって何をしてあげられるかといったことをまず考えないといけない。

## J 委員

学校再編の視点のところ、新しい学校づくりや幼小中一貫教育の推進について、書かれている言葉をどのように受け止めるのだろうかと考えていたが、会長から説明いただいて、これでよかったのだなと思えた。幼小中一貫教育のところでは、小学校、中学校の教員と幼稚園の教員の交流が進めば、より豊かなものになっていくのかなと思った。

## K 委員

意見交換会を開催して、実際に保護者や住民の方の声を聞いて、どのような印象だったかを事務局にうかがいたい。

## 事務局

全体的な印象としては、どうしても学校を残してほしいというよりは、子どものためにどうすることが一番いいのかということをよく考えていただいているなという印象を持った。

## 会 長

明らかに以前とは違う変化が生じてきているようだ。やはり学校を残してほしいという思いはあるのだけれども、それよりもまず、鳴門の子どもたちにプラスになるようにするにはどうすればいいのかという議論になっていった、ある意味では非常に前向きな雰囲気を感じられたと聞いている。

## 学校教育課長

一部ではあるが、子どもたちのためには、きちんと年限を決めた指針を出してくれた方がいいとおっしゃる人がいたことも印象に残っている。

## 会 長

何でもそうだが、急いでしてもうまいかない、でもやらなかったらやらなかったでそれもまた問題が起きる。そういうことを考えると、この鳴門の手法というのは、時間はかかるけども、逆によかったのかなと思う。

## E 委員

自分の子どもはこれまで学年で2クラス、3クラスあるような学校に通い、クラス替えがあるのが当たり前という状況で育ってきたが、学年で1クラスだけといった学校に通っていた知り合いの話を知ると、それはそれで家族みたいな雰囲気になってそれがいいと感じる人もいると言っていた。

幼小中一貫教育も、施設分離型ということで、学校間の移動の問題など大変な面もあると思うが、それらをクリアできるような体制を作ってよいスタートを切ることができればいいなと思った。

## G 委員

これまでの鳴門市の流れとして、保育所の次は幼稚園という人が多い中で、認定こども園という存在が出来た。そんな中で幼小中一貫教育などの新しい取り組みが始まれば、幼稚園か認定こども園どっちかとなった時の大きな判断材料になると思う。そう考えると、瀬戸中校区だけでなく全市的な取り組みとして広げてくれたらと思う親は多くいるのではないかなと思う。

## I 委員

幼小中一貫教育について、とても関心が高いことである反面、中身はどうかということについては、なかなか分かりにくい面があると思う。

本格実施に向けては、住民の方に改めて丁寧な説明が必要であると同時に、予算的なものであったり、体制構築であったりというしっかりした裏付けがないと結局はこれまでと変わらない連携にとどまってしまうのではないかなという危惧はある。

## 会 長

その点については同感で、住民に説明するにしても、体制を構築するにしても、ポンチ絵を作って、きちんと説明できるようにしておかないとならないだろう。それができないで、看板倒れに終わってしまった事例はたくさんある。

## A 委員

先ほどお聞きした意見交換会の雰囲気やいただいた住民の意見が全てだと思うが、子どもの幸せや将来を第一に考える、それが学校づくりの重要な部分であると思う。新たに新しい学校づくりというのが項目立てして入れていただいたことを嬉しく思う。これまで何度か、“質”ということの話をさせていただいたが、学校を再編していくという構造の質とともに、その次のプロセス、つまり教育の中身の質といったことにも言及していただいたことに前向きな姿勢を感じた。

## H 委員

学校内の職員の体制の中でどのような分掌を担当するかによっては、教科担当の人数が少なくなったりして、比較的大きな学校でも免許外指導するということはあり得るので9学級以上あれば絶対ということはない。

また、地域住民の学校に対する思いということについては、みんながみんな学校を何が何でも残すという考えの方ばかりではなく、子どものことを考えた場合に再編はやむを得ないと考えてくれる方もいたと思う。

## B 委員

今回の中間報告意見交換会やパブリックコメントの募集を通じて、市民ひとりひとりが学校づくりや子どもたちの教育ということについて、関心を持ってもらう大きなチャンスであると思う。

今までも質の高い教育を目指して、各学校、各園で工夫されてきたと思うが、今回の計画で示す“より”質の高い教育とはどういうことか、改めて検証する、みんなで考えるよい機会になるものと思っている。

鳴門市の教育ということを考えて時に、特徴的なものが幼稚園教育であると思う。この特徴を生かした幼小中一貫教育、これが全市的に広がっていくようになれば、これこそが新しい学校づくりという理念に繋がるものではないかと思う。

## 会 長

本日もみなさんからたくさんの意見をいただいた。本当に鳴門の教育というものを考えるよいチャンスだと思っている。保育所の次は幼稚園、そして小学校、中学校と続いていく、鳴門独特の就学文化を上手に活用できるように、幼小中一貫教育という新しい学校づくりの理念のもと、校種間の連携がスムーズにいくような体制を整えていくことが非常に大切になってくる。

今回みなさんからいただいた意見を踏まえ、パブリックコメント案ということで、市民に提示するが、文言の整理等は会長に一任いただけたらと思う。

- 4 その他として、事務局より今後のスケジュール及び次回の開催は4月末から5月上旬を予定し、日時は決定次第連絡する旨報告した。

## 会 長

異例な形ではあるけれど、より丁寧な形で答申を出すということで、年度をまたぐこととなったが最後までご協力いただけたらと思う。

- 5 閉会

以上